

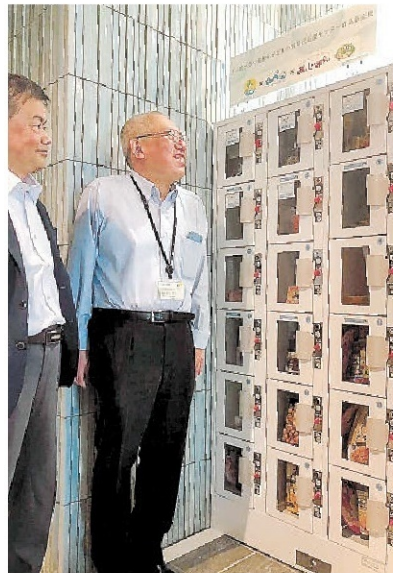
期限近い食品、自販機でお安く

バローHD、県庁に設置

売り上げは子ども食堂に

バローホールディングス（HD、多治見市）は、同社が展開するスーパーで出る賞味期限が近くなった食品を安価で販売する自動販売機を県庁2階食堂前に設置した。来庁者や職員に気軽に買ってもらい、食品ロス削減につながることも、売り上げの一部を子ども食堂に還元する。

自販機は、すぐに食べられるレトルト食品やカップ麺、菓子などがあり、100円と200円の手頃な価格で販売している。食品は季節やスーパーでの販売状況で変わる。コインロッカーのように、硬貨を入れると商品の扉が開く仕組み



賞味期限の近い食品を提供する自動販売機＝県庁2階食堂前

で、現金硬貨のみ対応している。売り上げの一部は、県社会福祉協議会が運営する「県子どもの居場所応援センター」に寄付され、最終的に県内の子ども食堂に届く。バローHDサステナビリティ推進室の秋元武室長は「賞味期限内であればおいしく食べられる。物価高に困っている人の助けになればうれしい」と語った。県は食品ロス削減に向け

て食品をおいしく食べ切る「ぎふ食べきり運動」を進めており、食品ロス削減月間の10月に合わせて同社が設置した。

（稲葉亮）